

しめのひとこと

志免町のいろんなひと いろんなこと をお伝えします！

8

学びを支える
国際交流活動

日本語教師として

おきの

みちこ

沖野 美智子

外国から来た人のための日本語講座教師
元アナウンサー

50代のころ、日本語教師の仕事に興味を持ち勉強を始める。退職後も、非常勤講師として教鞭をとりながら勉強を続け、日本語教師の実習でロンドンへ。2007年に帰国後、町の「外国から来た人のための日本語講座」で教え始める。以来、志免町に住む外国から来た住民のために活動している。元志免町国際交流町民会議（志免ワールドネット）の委員。



「外国から来た人のための日本語講座」に関わり、今年で11年目

日本に住むことになった中国残留孤児の方々が、志免町で暮らしやすくなるようにと日本語を教え始めたのが始まりと聞いています。私が関わり始めた平成20年頃は、先生が3人いて会議室に3ブロック作り、レベル別にあいうえおから教え、会話の練習をし、生徒がしっかり学べるようにしていました。

そのころの志免町では、住民ボランティア団体「志免ワールドネット」が様々な国の言語を学ぶ講座を実施していました。その中に、「外国から来た人のための日本語講座（以下、日本語講座）」もあったわけです。

平成23年に志免ワールドネットが解散したときに、語学の講座は予算もなくなり、全て取りやめとなりました。日本語講座は、日本語を教えることを通じて、外国から来た志免町の住民の方を支援している側面がありました。私の考えとしては、これから志免町で暮らしていくためのツールとして必要だから、教える側の都合でやめることはできないと思い、志免ワールドネットが解散した後も、希望する

生徒から300円の会費を集めながら、何とか存続する道をつなぎ、日本語を教え続けました。

そのうちに、当時の役場職員の方が手続きをしてくださり、志免町の「外国から来た人のための日本語講座」として発足しました。

私としては誰でも来て参加できる、せめて隣町ぐらいまでの困っている外国からきた方がいると思うので、その方たちに来てもらえるような講座でありたいと考えていました。行政の支援する講座ですと、生徒の対象が志免町の在住・在勤者に限定されます。ありがたいことですが、当時一緒に活動していた先生とは、望んでいる日本語教室の形ではなくなってしまい残念な気持ちを抱いていました。



日本語講座の様子や、最近の受講生の変化について

はじめの頃の受講者は中国のほかにアメリカ、ポーランドなど英語圏の方もいました。今は中国、フィリピン、ベトナムの方が多く出身国の変化を感じます。また、技能実習生として志免町で働く生徒が多いです。生徒のレベルはさまざまですが、日本語を少し学んできています。また、最近ではパソコン



2011年8月、台湾家庭料理講座

ンやスマホを使い、自分でも学習しているようです。それでも、私たち教師は、あいうえおから順にしっかりレベルチェックをして教えていきます。

各国の言葉で書かれた「やさしい日本語」というテキストを使用して、あとは生徒に合わせて、いろいろと印刷したものを用意して授業をしています。講座の先生は、現在7人ほどで活動しています。

ここ数年で先生が以前より増え、本当によかったです。先生は宇美町や志免町から来ています。日本語教師の資格をお持ちの方とボランティア講師の方、両方いますが、生徒の日本語レベルによって担当を決め、生徒を受け持つようにしています。



志免町の生徒たちの現実 先生たちが実践している支援

講座を受けている生徒は、仕事後に参加します。初めのうちは熱心に来ていても残業が始まって、勉強したくてもできない状態が続くとあきらめて、電話連絡もこないようになることが続いています。会社の担当者が生徒と一緒にあいさつに来るような熱心な会社でも、仕事を覚えていくと同時に残業も発生し、日本語講座に参加できなくなる。

教師としてはやる気をそがれますよね。待ちぼうけになることもよくあります。

困っている生徒から相談されたら、支援をすると決めています。生活のあらゆることや働き方などについても、先生たちはできる限り支援しています。生徒は一人ひとりが悩みを抱えて生活している。今までも、日本で暮らしやすくなるように町内の団体とつないだり、子育て中の生徒には、子どもも一緒に連れてきていいよと伝えて、日本語を教えることもありました。



生徒の語学力の変化と 先生たち関わり方

例えば日本人と結婚している生徒は、ある程度のレベルになるまでも早く、すぐ卒業していきます。生徒の中には、日本語能力検定でN1（日本企業に求められるレベル）までとる生徒もいます。まじめな子はしっかり結果も出ています。生徒の年代も10代から50代と幅広く、日本語のレベルや学習意欲にも差があります。先生たちはそれぞれの生徒に寄り添い、時には友人のように教えています。



講座の時に大事にしていること

生徒には質問文を覚えて、使えるようになることが大事だと伝えていきます。英語の5W1Hです。日本語で答えを考えるのは難しくても、質問を重ねることはできる。「これは、なんですか」が言えたら、そこから言葉が広がっていくでしょう。

今、私自身は夜間の車の運転に不安があって、講座は緒方先生と、新しく増えた先生たちで実施しています。それでも、心はいつも日本語講座の皆さんと一緒にですよ。



取材を終えて

経験を活かし社会に還元するセカンドキャリアの過ごし方や、困っている人を自分が知っている社会的資源につないで、支援していく活動を実践されている話を聞くことができました。また、活動の継続を第一に考え、次の世代にバトンタッチしていくことも大切だと感じました。



志免ワールドネット 10周年記念誌より

